



子育て中のリフレッシュについて

涼風の会 あいこ

問 子育て中に子どもを預けてリフレッシュに利用できる市の二つの事業のうち、保育園の一時保育はほとんど空きがなく、ファミリーサポートセンターは援助会員がなかなか増えていかないといった課題もあって、リフレッシュのための利用は少ないのが現状です。

このような状況が今後も続くことが懸念されますが、市が一時預かり専門の場所を作る考えはありませんか。

例えばこどもセンターの中で一時預かりをしてほしいという声を聞きますが、市はそのような要望を把握していますか。また、市民の要望に応えたいという職員の声はないかどうか伺います。

答 (保健福祉部長)：子育て支援センターなどでの一時預かりの要望は承知しており研究していますが、預かりスペースや人員体制などから現状での実施は難しいと考えます。しかし子育て中のリフレッシュはとても大切ですので、今後も実施方法を研究していきたいと考えています。

なお、子育て支援センターではヨガや小物づくりなどの託児付きのリフレッシュ講座を定期的に開催しているほか、保護者同士のおしゃべりや保育士への相談などでリフレッシュできるような空間づくりに努めています。

問 子育てしている方のリフレッシュ時間の確保についての市長の考えを伺います。

答 (市長)：保育などさまざまな子育ての環境にゆとりが出れば、そういうことができる段階になりますので、まずは待機児童をゼロにすることを第一目標にしています。

その他の質問

- ・ 小中学校の給食について
- ・ 平和事業について



子育て支援について

立憲民主えびな たち 登志子

問 宿泊型産後ケア事業の詳細について伺います。また導入に至った経緯なども伺います。

答 (保健福祉部長)：産後ケア事業はこれまでの通所型訪問型に加え、令和6年10月から宿泊型を開始し、併せて通所型を本格的な内容へと進化させました。この宿泊型、通所型産後ケア事業において最も重視すべきは協力いただける産婦人科の医療機関を確保することであると認識して取り組み、多くの産婦人科医療機関に向いて協議を行い、市内外の8医療機関と契約ができました。

問 宿泊型産後ケアの利用料は課税世帯が6千円、非課税世帯が3千円とのことですが、これは1日当たりなのか、1泊当たりなのかを伺います。また本来なら1泊いくらかかるのか、公費負担や減免措置などの詳細を伺います。

答 (保健福祉部長)：利用料は1日利用した場合の費用ですので、1泊では2日のカウントになり、課税世帯の方の利用ですと1万2千円となります。実際にかかる費用は1日当たり3万円で、1泊では6万円かかります。

なお、自己負担額1万2千円を除いた4万8千円については、国と市で2分の1ずつ補填している状況です。

問 産前産後サポートの一つである家事サポートについて、現在どのように考えられているのか伺います。

答 (保健福祉部長)：産後のサポートは、メンタル面や健康面のサポートが重要であり、まずは産後ケア事業の充実に取り組んできました。家事サポートについてはしっかりと協議を重ねながら研究していきたいと考えています。

その他の質問

- ・ 平和行政および平和教育について
- ・ 災害対策の現状について



財政の見通しに関する対応策について

海老名維新の会 たいら 学

問 近年の厳しい財政状況を踏まえると、税収の増加に向けた戦略的なアプローチが重要と考えます。市としての課題にどのように取り組まれているのか、具体的な見解をお伺いします。

また行政運営に経営的視点を取り入れることは、持続可能な市政運営に不可欠と考えますが、現状どのような仕組みや施策を採用されているのか、具体的な例を交えてお聞かせください。

答 (市長)：本市はこれまで戦略的かつ積極的に都市基盤整備を推進し、人と企業に選ばれるまちとして発展してきました。人口の増加や企業の進出は、にぎわいと税収の増加に直結していますので、この流れを止めることなく、引き続き各施策を推進し、持続可能な行政運営に取り組んでまいります。しかし今後確実にやってくる人口減少にどう対応するかが大きな課題です。そのためには大和、座間、綾瀬の各市と、スケールメリットを生かした広域行政を推進してお互いを補い合うことが必要であり、4市の広域連携を進めてまいりたいと考えているところです。

答 (財務部長)：経営的な視点に立った行政運営としては、行政評価制度を活用した事業の見直しや企画提案、広域的な行政課題に対する近隣自治体との連携などに取り組んでいます。また持続可能な財政運営としては、税収の増加につながる施策に取り組むとともに、歳入確保や歳出抑制を図りながら安定的な財政基盤の構築に努めており、基金の適切な運用にも取り組んでいます。

その他の質問

- ・ 未来創造プラン2020の取り組みについて

